

令和3年度 島田市総合計画市民意識調査の結果について（報告）

1 調査の概要

市民意識を調査し結果の経年変化を分析することにより、施策の評価や総合計画の進捗管理及び後期基本計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

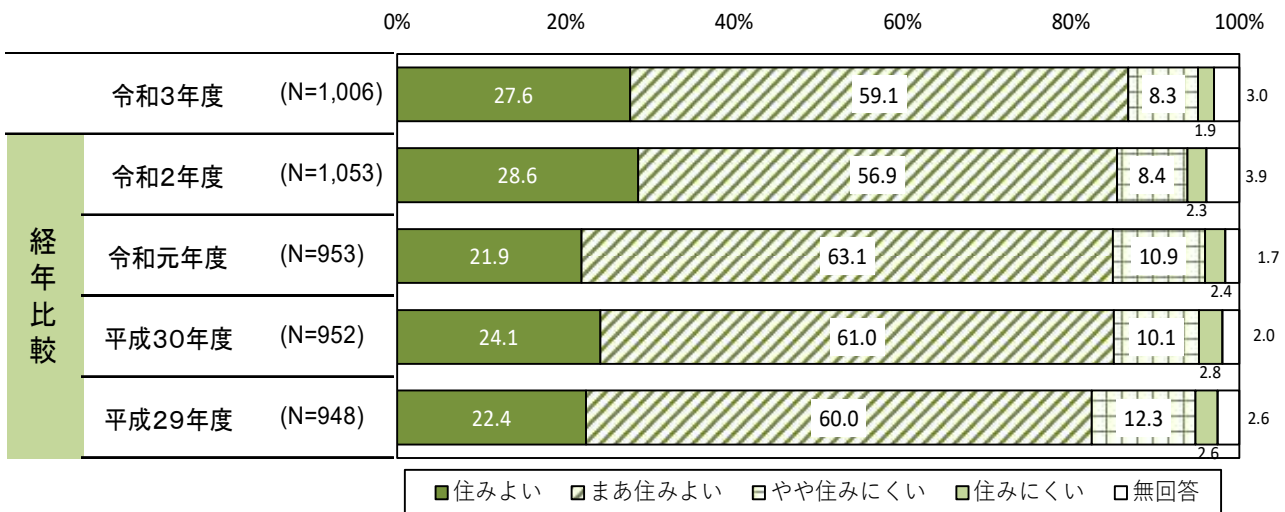
調査対象：市内在住の18歳以上の男女2,500人 実施期間：令和3年6月10日～6月25日
 調査方法：郵送調査法（WEB回答も可） 有効回収数：1,006票（前回1,053票）
 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出 有効回収率：40.2%（前回42.1%）
 ※WEB回答数は167件ありました。WEB回答を開始以降、R1 67件 R2 72件という実績だったため、今年度は一昨年及び昨年度の2倍以上の方がWEB回答を選択しています。

2 調査結果

●島田市での暮らしについて

島田市の住みごころについて、86.7%の人が『住みよい』と回答しています。

「住みよい」27.6%、「まあ住みよい」59.1%を合わせると86.7%となり、過去最高の結果となりました。調査を開始した平成25年度以降、8割を超える割合を維持しています。

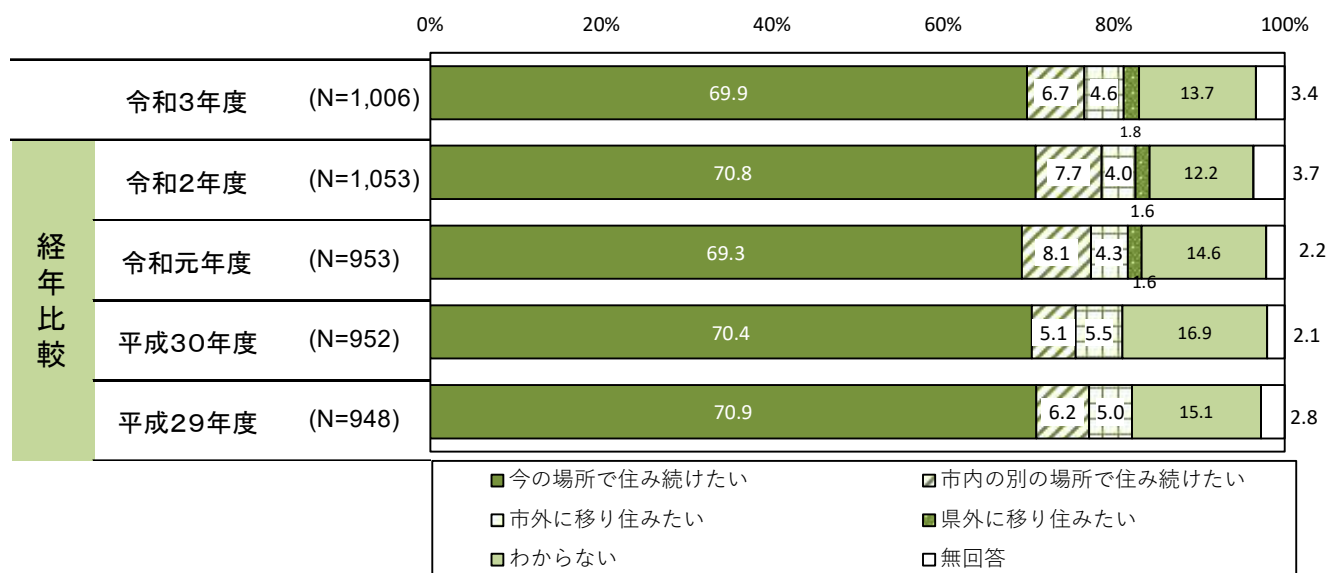


※県内他市調査結果（参考）

- ・焼津市…設問「あなたにとって、焼津市は暮らしやすいところですか、それとも暮らしにくいところですか。」(R2)
 『暮らしやすい』68.5%
 「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」40.0%
 ※島田市にはない「どちらともいえない」という選択肢があります。(20.3%)
- ・菊川市…設問「総合的に見て、菊川市は住みよいところだと感じますか」(R3)
 『住みやすい』90.4%
 「住みやすい」31.7%、「どちらかといえば住みやすい」58.7%
- ・掛川市…設問「あなたにとって掛川市は住みやすいところですか」(R3)
 『住みやすい』78.3%
 「とても住みやすい」18.0%「どちらかと言えば住みやすい」60.3%

島田市への定住意向について、76.6%が『これからも島田市に住み続けたい』と回答しています。

「今の場所で住み続けたい」69.9%、「市内の別の場所で住み続けたい」6.7%を合わせると、**76.6%**となり、前回調査結果（78.5%）と比較し1.9ポイント低くなりました。調査を開始した平成25年度以降、7割を超える水準を維持しています。



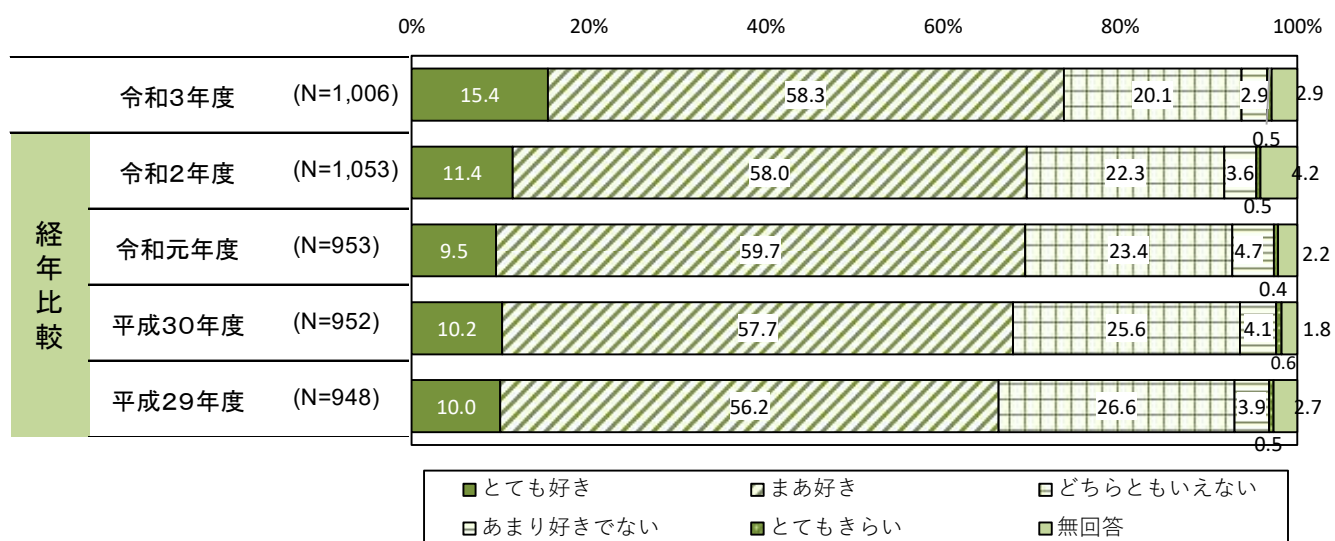
※県内他市調査結果（参考）

- ・静岡市…設問「あなたは、これからも静岡市に住み続けたいと思いますか。」(R2)
『住み続けたい』86.9% 「そう思う」56.7%「ある程度、そう思う」30.2%
- ・焼津市…設問「あなたは、これからも焼津市に住み続けたいと思いますか。」(R2)
『住み続けたい』72.3% 「住み続けたい」40.7%「どちらかといえば住み続けたい」31.6%
- ・菊川市…設問「今後も菊川市に住み続けたいと思いますか」(R3)
『住み続けたい』：70.0%

島田市に対する好感度について、73.7%が『島田市のこと好き』と回答しています。

「とても好き」15.4%、「まあ好き」58.3%を合わせると**73.7%**となり、前回結果（69.4%）と比較し4.3ポイント高くなりました。

調査を開始した平成28年度以降、最も高い結果となりました。



●島田市の取組に対する満足度と重要度について

満足度（点数）※が高いのは、9年連続で「ごみ・リサイクル対策」です。

重要度（点数）※が高いのは、9年連続で「医療の充実」です。

令和3年度 順位	満足度 ※（）内は前回順位	重要度 ※（）内は前回順位
第1位	ごみ・リサイクル対策（1位）	医療の充実（1位）
第2位	健康の増進（2位）	水資源・水環境の保全（3位）
第3位	水資源・水環境の保全（3位）	ごみ・リサイクル対策（4位）

※満足度（重要度）の回答を点数化（5点、3点、0点、-3点、-5点）し、その平均値を計算した指標です。

令和3年度調査結果において、満足度が低く重要度が高い「重点取組エリア」に属しているのは以下の11項目です。

※「重点取組エリア」とは、各取組の満足度・重要度に応じた散布図を作成した際、満足度が全体の平均値よりも低く、重要度が全体の平均値よりも高いエリアのことを言います。

<p>政策分野3＜産業について＞</p> <p>(12)雇用の確保・創出 (13)企業への支援や誘致などの工業振興 (14)魅力ある商店街づくりなどの商業振興 (15)農林業の振興(生産基盤の整備・後継者育成等)</p>	<p>政策分野4＜環境、生活について＞</p> <p>(17)再生可能エネルギー活用などによる地球環境の保全 (19)省エネルギーの推進 (38)公共交通機関の充実</p>
<p>政策分野6＜都市基盤について＞</p> <p>(31)住宅地の整備や良質な住まいづくりの促進 (安心して暮らせる居住環境の整備) (33)主要な道路(地域間を結ぶ比較的広い道路)の整備</p>	<p>政策分野7＜市の行財政について＞</p> <p>(40)市の財政の健全運営 (43)公共施設の質・量・管理費の適正化</p>

※政策分野1、2、5については、「重点取組エリア」に属する取組はありませんでした。

○昨年度との比較

①昨年度は「重点取組エリア」に属していたが、外れた取組

(5) 障害者が生活しやすい環境づくり

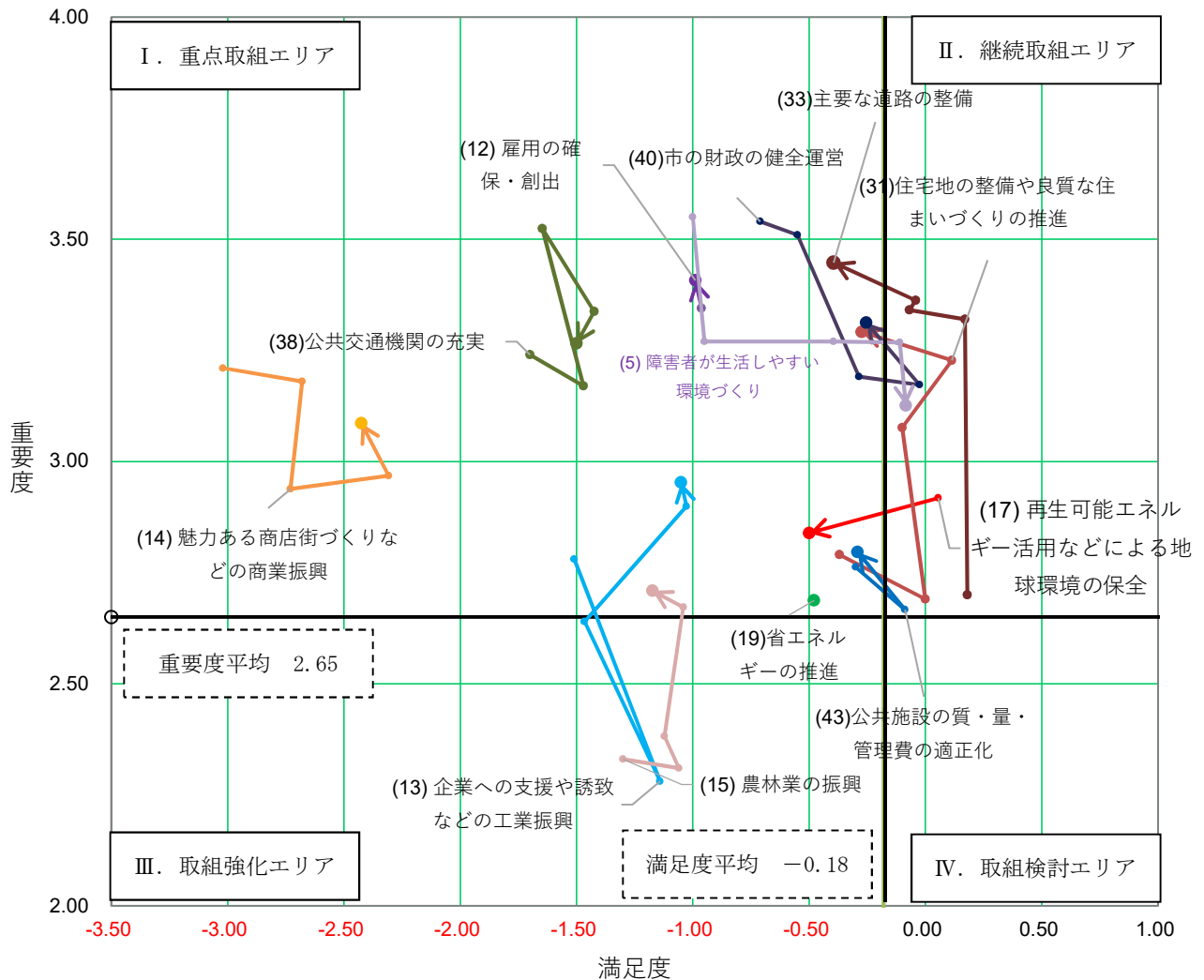
②今年度新たに「重点取組エリア」に属した取組

(15) 農林業の振興(生産基盤の整備・後継者育成等)

(19) 省エネルギーの推進

(31) 住宅地の整備や良質な住まいづくりの促進(安心して暮らせる居住環境の整備)

(43) 公共施設の質・量・管理費の適正化



○昨年度との比較（グラフからの考察入り）

①昨年度は「重点取組エリア」に属していたが、外れた取組

(5) 障害者が生活しやすい環境づくり

昨年度と比較して取組の満足度自体は低下していないが、満足度の平均値の軸が左方向にずれたため、「重点取組エリア」から外れた。

②今年度新たに「重点取組エリア」に属した取組

(15) 農林業の振興(生産基盤の整備・後継者育成等)

重要度が若干上昇(グラフ上側に移動)し、重要度の平均が若干低下(グラフ下側に移動)したため

(19) 省エネルギーの推進

新たな設問

(31) 住宅地の整備や良質な住まいづくりの促進(安心して暮らせる居住環境の整備)

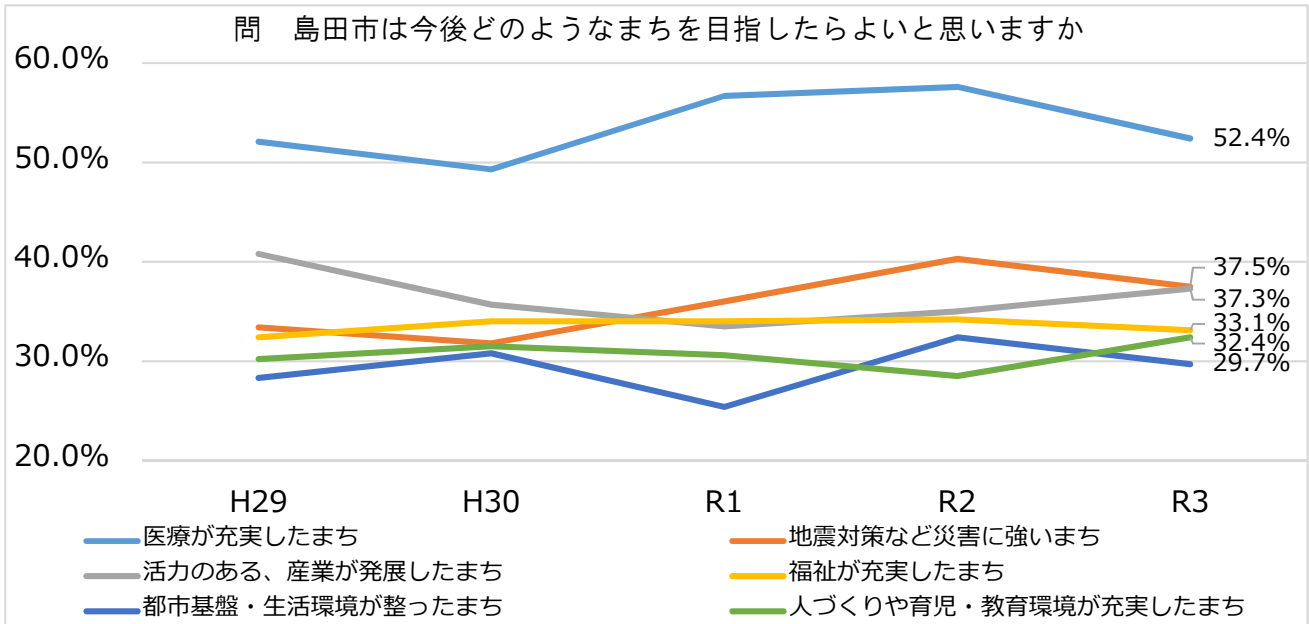
(43) 公共施設の質・量・管理費の適正化

満足度が低下(グラフ左側に移動)したため

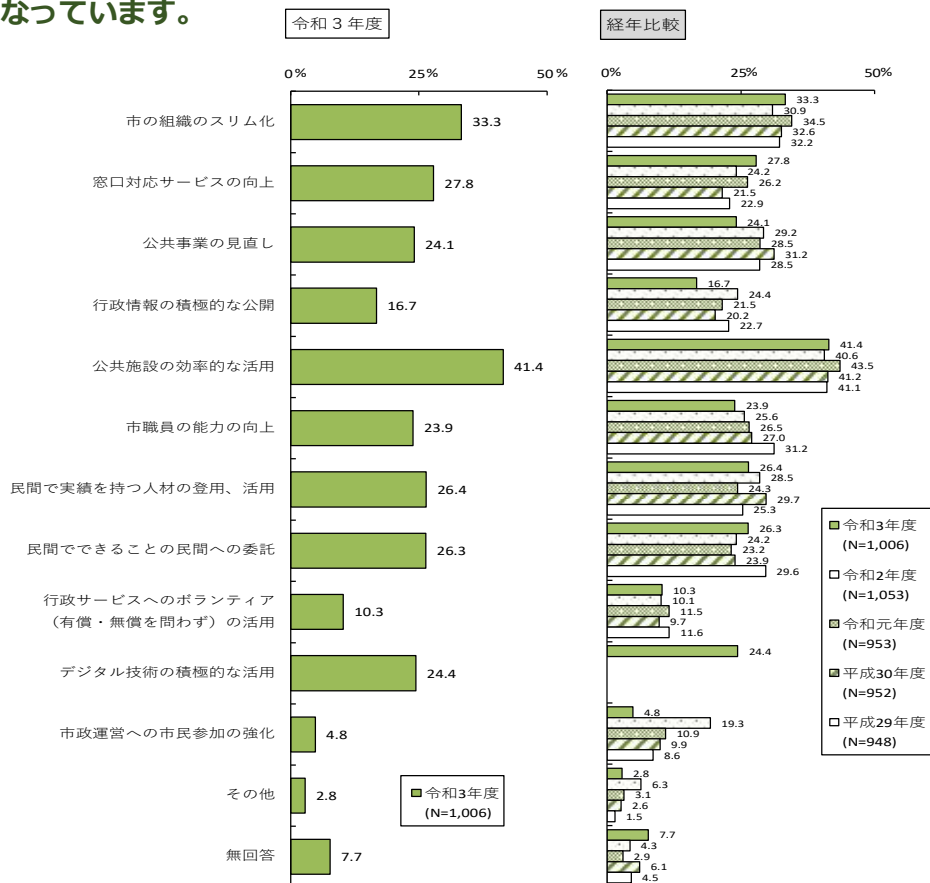
●今後の市政の取組について

島田市が今後どのようなまちを目指したらよいかについては、52.4%の人が「医療が充実したまち」と回答しました。

「医療が充実したまち」は9年連続で第1位に位置しています。また、その他の上位項目も、継続して上位に位置しています。



島田市の行政運営について今後望むことについては、「公共施設の効率的な活用」と回答する割合が最も高くなっています。



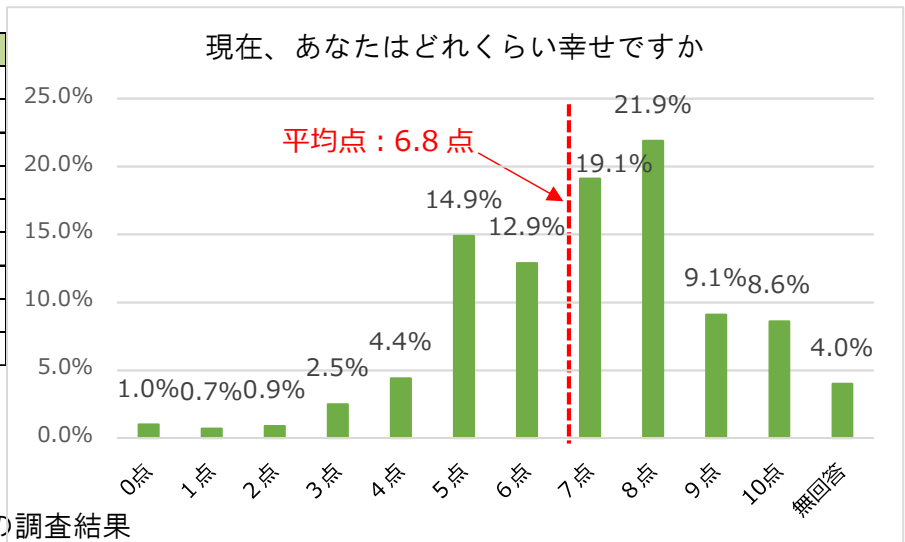
●市民の幸福感について

市民の幸福感を点数化すると、平均6.8点/10点満点（全国平均6.4点）でした。

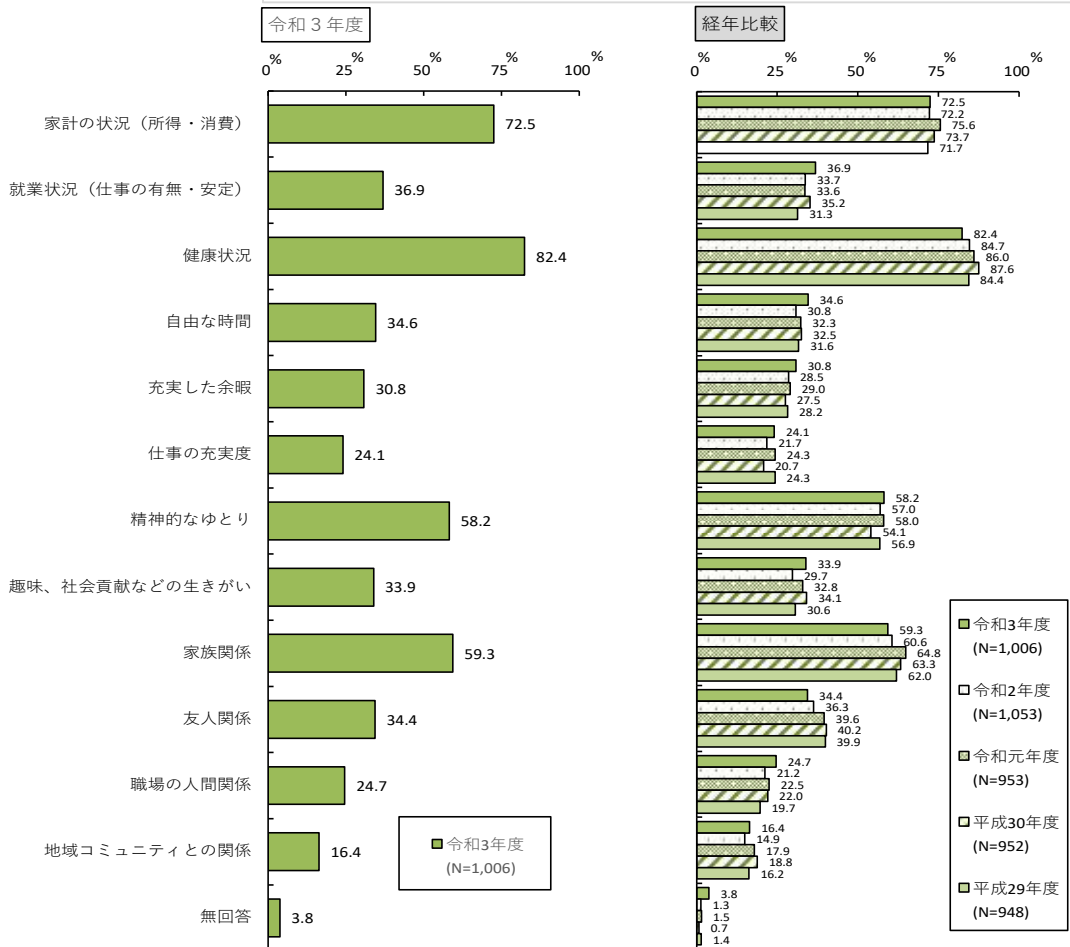
過年度と比較し+0.1点となりました。なお、回答のばらつき（分散）は例年並みで、平均点を境に前後の得点、5点、6点、7点、8点に回答がまとまる傾向が継続しています。また、男性の平均点よりも、女性の平均点の方が高い傾向に変わりはありません。（男性6.3点 女性6.9点）

幸せであるために重要な事項については、上位から「健康状況」「家計の状況(所得・消費)」「家族関係」「精神的なゆとり」「就業状況(仕事の有無・安定)」です。

		平均点(無回答を除く)
島田市	令和3年度	6.8
	令和2年度	6.7
	令和元年度	6.5
	平成30年度	6.6
	平成29年度	6.6
	平成28年度	6.6
	平成27年度	6.7
全国	平成26年度	6.6
	平成29年度	6.1



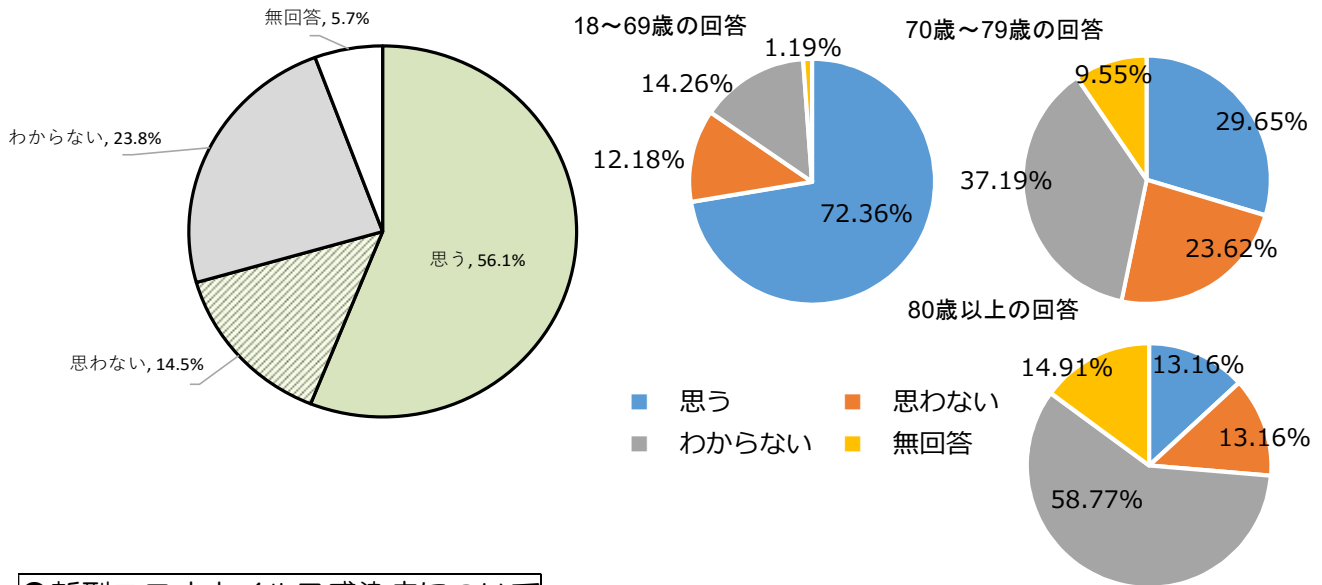
幸せであるために重要な事項の調査結果



●デジタル技術について

デジタルの力で生活の利便性が向上したかについては、56.1%の人が向上したと思うと回答しました。

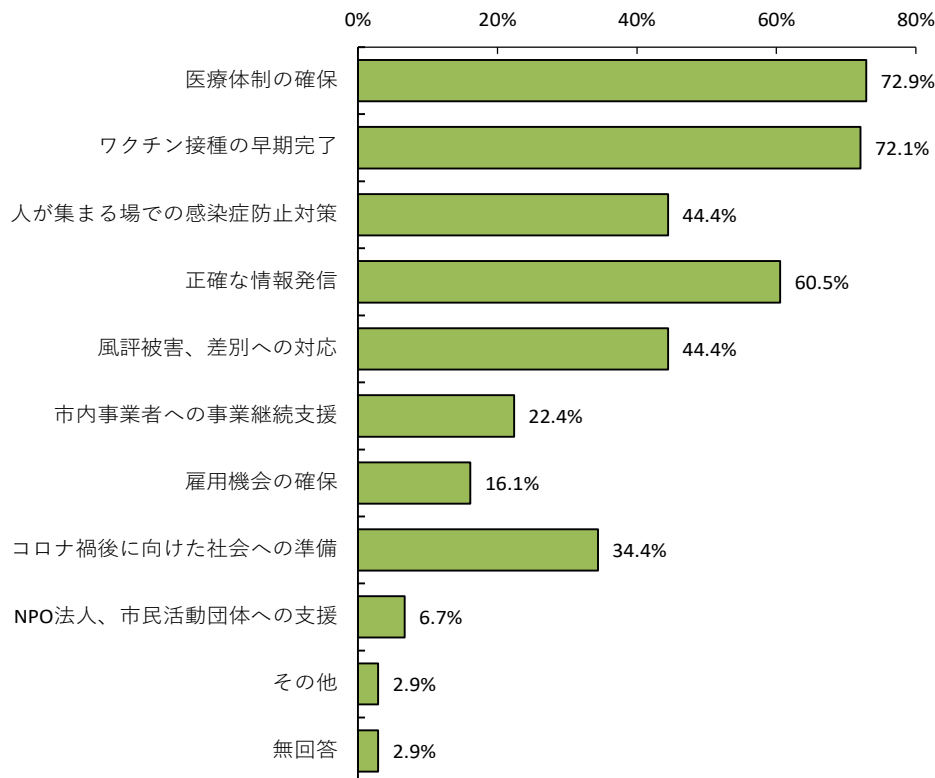
年代別に見てみると、60代以下は「思う」が72.4%、「思わない」が12.2%となっているのに対し、70代以上ではほぼ1対1になります。また、70代以上から「わからない」の割合が急増し、80代以上は、58.8%が「わからない」と回答しています。



●新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症対策として行政に求めていることは、医療体制の確保、ワクチン接種の早期完了が高い結果となりました。

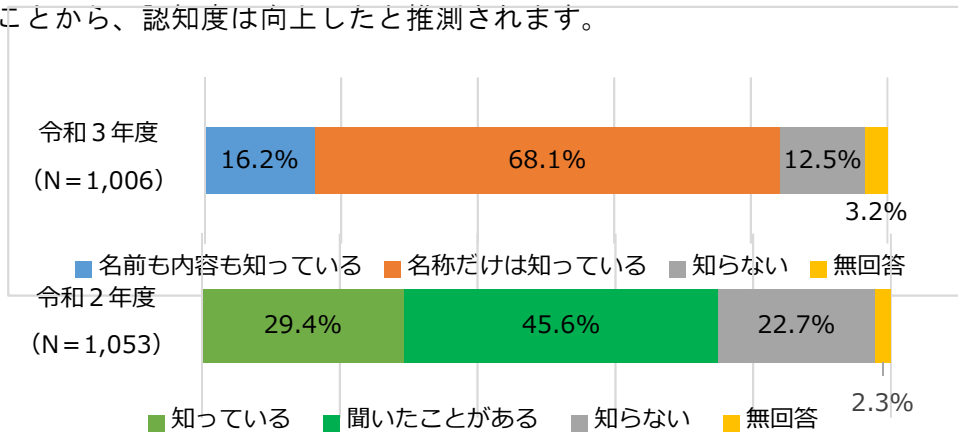
年代等による差はほぼありませんでした。



●島田市緑茶化計画について

島田市緑茶化計画について、84.3%が『知っている』と回答しています。

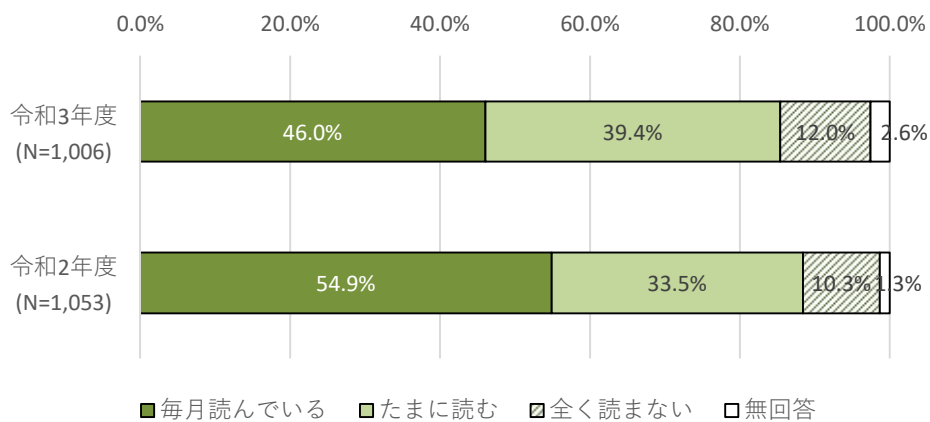
昨年度と回答の選択肢を変更したため単純比較はできませんが、知らないの回答割合が10.2%減少していることから、認知度は向上したと推測されます。



●広報しまだについて

広報しまだを読んでいる人は、85.4%でした。

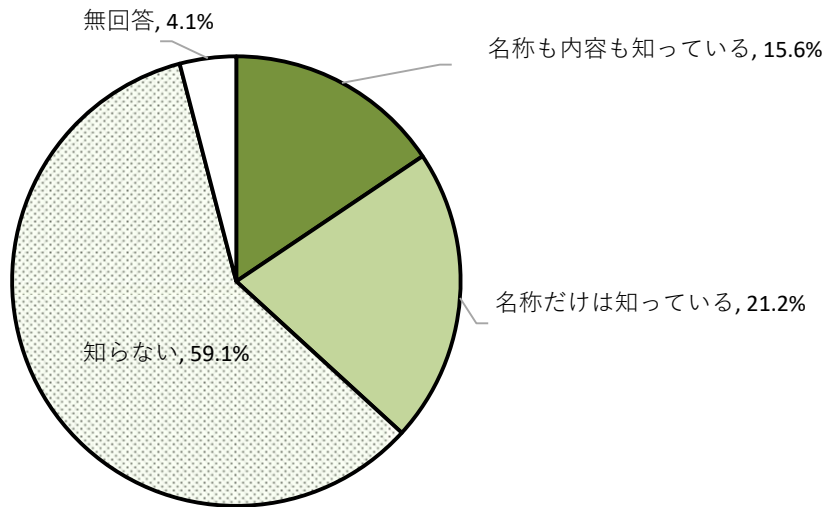
「毎月読んでいる」が最も多く、次点が「たまに読む」となっています。「全く読まない」は30歳未満に多く、30代は20.8%、20代以下は44.6%が「全く読まない」と回答しています。



●環境に関することについて

カーボンニュートラルを『知っている』は、36.8%でした。

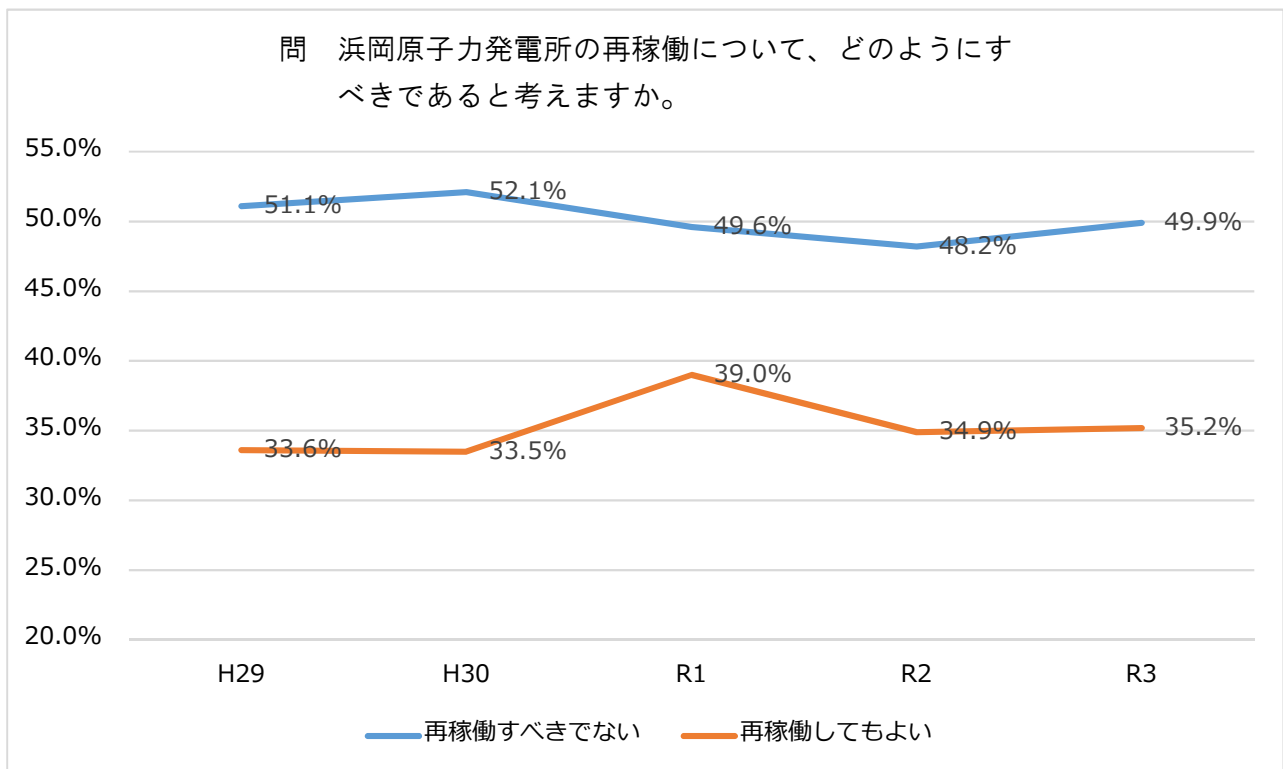
カーボンニュートラルについては「知らない」と回答した人が最も多く、59.1%でした。



●浜岡原子力発電所について

浜岡原子力発電所については、49.9%が『再稼働すべきでない』、35.2%が『再稼働してもよい』と回答しました。

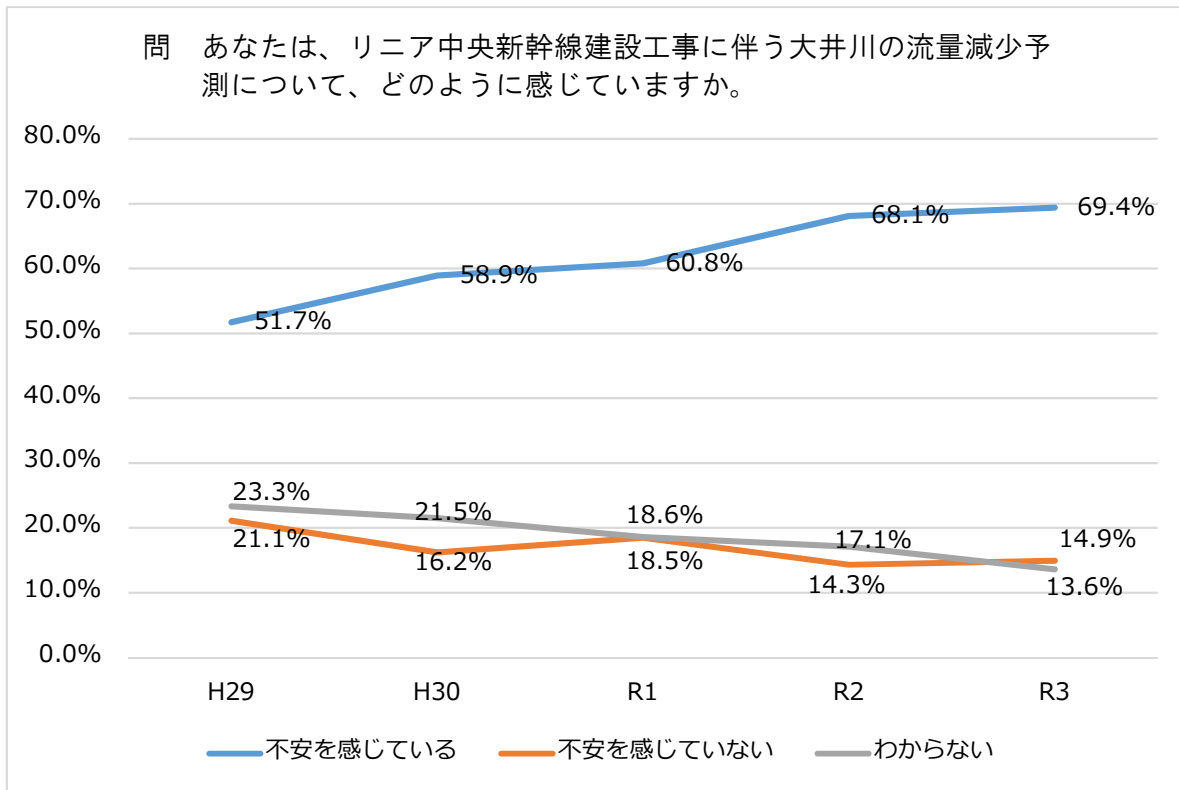
『再稼働すべきでない』と『再稼働してもよい』の比率は昨年度とほぼ同じです。「今の段階で再稼働してもよい」と回答した人が2倍以上になっています。(4.3%→10.8%)



●リニア中央新幹線の建設工事について

建設工事に伴う大井川の流量減少予測への対策について、69.4%が『不安を感じている』と回答しました。

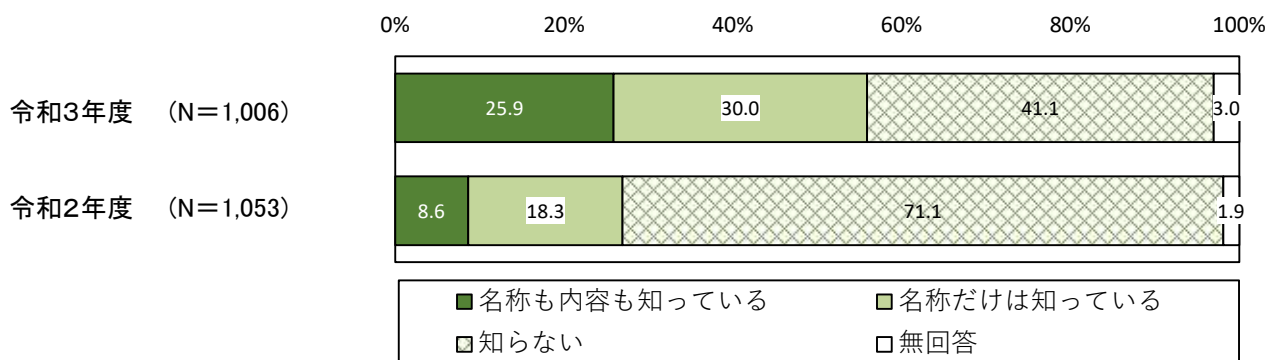
『不安を感じている』は、前回と比べて1.3ポイント高くなっています。一方、『不安を感じない』と回答した人は14.9%となり、前回と比べて0.6ポイント高くなっています。また、年々「わからない」と回答する割合が減少しており、市民の関心の高まりが伺えます。



●SDGs（持続可能な開発目標）について

SDGsについては、55.9%が『知っている』と回答しました。

昨年度と比較すると、『知っている』の割合が2倍以上となっており、関心の高まりが伺えます。年齢別に見ると、10代の認知率が最も高く、70代以上が低くなっています。朝日新聞社が2020年12月に実施した調査では、「あなたは「SDGs」という言葉を聞いたことがありますか」という問いに対し「聞いたことがある」と回答した方が45.6%（前年32.9%）となっており、島田市民の認知度の上昇率は全国的な結果と比較しても大きいものとなっています。



SDGsの「名称も内容も知っている」人のうち、SDGsに関する行動をしている人は65.1%でした。

人数では、「名称も内容も知っている」人が261人、その内170人がSDGsに関する行動をしているという結果になりました。アンケート回収の総数と比較すると、16.9%の人がSDGsに関する行動をしているという結果になります。

